

令和4年度 第2回 青森支部評議会の概要報告

開催日時	令和4年7月14日(木) 10:00~12:00
開催場所	全国健康保険協会青森支部会議室
出席評議員	秋田谷評議員、木村評議員、今評議員、藤沼評議員、前多評議員、吉田評議員 (五十音順)
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和3年度決算について 2. 令和3年度事業報告について 3. その他(報告事項:青森支部医療費等分析)
議事概要 (主な意見等)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>議題1について、事務局より資料に基づき説明。</p> </div> <p>●令和3年度決算について</p> <p>【被保険者代表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協会けんぽは基本的には赤字構造であると説明があるが、一方で保険給付費の5か月分以上の準備金が積み増しされていて少し釈然としない。コロナの影響で使用者も労働者も生活的にはだいぶダメージを受けているので、将来にわたって費用負担を抑えつつやっていくような方法をご検討いただきたい。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2008年度を1として、賃金があまり伸びていない一方で医療費がどんどん伸びている。結果として令和3年度の単年度収支は黒字であったが、赤字構造であることには変わらない。今後、2025年度までに団塊の世代が後期高齢者となり、後期高齢者支援金も増加していくことから、一層保健事業に力を入れながら医療費の適正化に努めていく。 <p>【事業主代表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所数が増えると被保険者が増えるのかと思うと、そうではなくて横ばいになっているのはどういったことか。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従業員1人2人といた事業所の加入が大きく増えているため、事業所数の伸び率が高くても、被保険者数の伸び率はそれほど高くなっていないということである。 <p>【学識経験者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所数は増えて、被保険者数は横ばいで、被扶養者数が減少に転じているが、これは単身者が増

えているということか。

(事務局)

・人口減少の中で、協会けんぽの75歳未満の加入者が増えており、核家族化などによる単身者増があるかもしれないが、日本年金機構による適用事業所の拡大策など様々な要因があると考える。

議題2について、事務局より資料に基づき説明。

●令和3年度事業報告について

【学識経験者】

・KPI未達成の中で、返納金債権の回収率61.8%は令和2年度実績と比較してかなり低い実績なのはなぜか。

(事務局)

・KPIは基本的に前年度以上に設定するルールになっており、令和2年度の実績が76.03%と非常に高かったこと。また、遡及しての資格喪失による債権発生が増加し低い実績となったものである。

【被保険者代表】

・被扶養者の特定保健指導実施率について、KPIの設定が高すぎるのではないか。

(事務局)

・被扶養者の特定保健指導については、平成29年度から30年度にかけての高い実績が反映されており、過去の実績値を考慮し、高めの設定になっている。

【被保険者代表】

・保険証回収率のKPIについて、どの時点での目標か。

(事務局)

・資格喪失処理後1か月時点での回収率となっている。

【学識経験者】

・郵送化率と保険証の回収率がKPI未達となっている。電子申請など郵送以外の方法が別にあるのか。また、保険証の未回収が多い事業所に対しての協力依頼は、毎回同じ事業所が多いのか。

(事務局)

・協会けんぽでは電子申請は現状できない。申請については郵送もしくは窓口での受付ということになる。保険証の未回収事業所については、本部から提供される対象事業所データによる勧奨により解消されることも多いが、繰り返し未回収事業所となるケースも少なくないことから、引き続き事業所への協力依頼をしながら進めていきたい。

【学識経験者】

・保険証の回収率で、改善される事業所も多いということだが、再度通告しても改善しない事業所があるのであれば何かしらペナルティを課すことはできないのか。

(事務局)

・ペナルティを課すことはできない。なかなか証回収が進まない事業所には、個別に注意喚起をしていくとともに、全体的には広報をしっかりと進めていくしかない。

議題3について、事務局より資料に基づき説明。

●その他（報告事項：青森支部医療費等分析）

【被保険者代表】

・協会けんぽ独自のデータで、可能性としてすごく広がりがある。県とか研究機関等の連携はあるのか。

(事務局)

・連携協定を結んでいる県や市町村に対しては、支部データを提供し、国保データ等と比較する等、共通の課題を見出し、連携事業につなげている。

【被保険者代表】

・血圧値については、日本の基準と世界の基準が違うので見直してほしい。

(事務局)

・日本動脈硬化学会や日本高血圧学会で日本人に合わせた数値を出し基準としている。今後はさらに低くなる話が出ている。一般的には低ければ低いほど生活習慣病の予防につながると言われている。

【被保険者代表】

・特定保健指導について、従業員の更なる利用を促すため、どのくらいの効果があったのかを事業所ごとにデータをいただけないか。

(事務局)

・対象者が少数である場合、個人を特定されてしまうため提供はできない。事業所ごとに難しい場合にどのような方法で提供できるか検討させていただきたい。

【学識経験者】

・0歳から9歳の入院外の受診率が高いとあったが、自治体の取組で医療費を無償化したことが影響しているのか。各自治体の独自サービスであるが、このようなサービスを展開する際には、協会けんぽに対し自治体から事前協議等はあるのか。

(事務局)

・事前の協議はない。子どもの医療費を無償化することで、安易に医療を受けるというような意識につながる可能性はあると思われる。それぞれの自治体におけるサービスを否定はできないため、かかりつけ医の推奨等、適正受診につながる広報に努めてまいりたい。

以上

特 記 事 項

- ・傍聴者 デーリー東北
- ・次回は10月に開催予定